Google ドキュメントの音声入力を活用した主体的な学びと指導者の学習評価の効率化

（NEW HORIZON English Course2 Unit5 Universal Design ～ Unit6 Research on Your Topic）

① 話・や	② 個・学	② 評価	③タブ	④ Google ドキュメント

【ここがポイント！】

①「ＩＣＴの音声入力機能を活用し，生徒の発話を可視化」

個別の音読練習やペアで行う Small Talk など，生徒たちの英語使用の場面で，ヘッドセットと Google ドキュメント内の音声入力機能を使用することで，発話した英語を可視化し，気付きを与えたり，他者と共有したり比較したりすることができるなど，「学びの自己調整」に活用することができる。

②「学習評価での活用」

前述のとおり，個々の生徒が自分の発話を確認することができ，自己評価につなげることができる点はもちろん，指導者も生徒が授業内で発した英語を確認することができる。

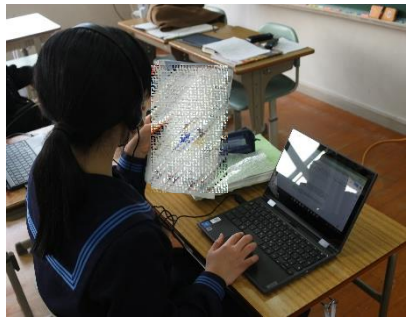
【実践の目標】

伝えたい内容が音声入力で正しく反映されるよう，発音などに気を付けて話すことができる。

【実際の場面】

１．教科書本文の音読での活用

音声入力の言語を英語に設定することで，自身の英語による発音を正確に音声入力するためには，語彙の正しい発音はもちろん，文における基本的なイントネーションや区切りなどの要素も必要になる。生徒は音声入力による音読練習を通して，改善点に気付き，そこを重点的に練習することで効率的に学習を進めることができた。



２．Small Talk（Pair Talk）での活用

これまで即興的な会話は振り返りをさせることが難しかったが，会話の内容が文字として残ることで可能となった。全体共有の際によいモデルを提示した際にも，自分たちの会話と比較することを通して修正させたり，改善させたりすることができた。また，１回目と２回目の会話を比較させることで成長を実感させ，その後の学習の意欲向上につなげることもでき

３．英語使用の動機付け

音声入力で発した英語が文字として残り，指導者も確認できるため，指導者からのフィードバックや評価が可能となった。そのことが生徒の「話すこと」の活動を価値あるものに引き上げ，英語で発話しようとする意欲の向上につながる補助的な役割を果たした。

４．学習評価（指導者）での活用

音声入力した発話を Google Classroom で指導者に提出させることで，授業内・活動内での全ての生徒の発話を確認することができた。評価の際に活用するだけでなく，授業内で情報を共有する際にも役立った。なお，音声入力ではＡＩが生徒の発話を確実に認識するわけではないことに留意する必要がある。

５．学習評価（学習者）での活用

授業の振り返りの際に，授業内で自分が発した英語を確認しながら書くことで，反省や次時の目標設定において具体的な内容を書かせることができた。

【成果と課題】

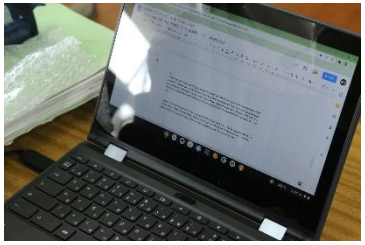
【成果】

○生徒の英語による発話量の増加につながった。

○発話の可視化によって，自ら振り返ったり，他者と比較したりすることで，個々の改善点に気付き，「学びの自己調整」につなげることができた。

○指導者が，生徒全員の学習の状況を把握することができた。

【課題】

○周囲の環境や音声認識の精度によって，生徒の英語が正しく入力されない場面があった。

安芸高田市立高宮中学校